

みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう

まちの緑は、私たちの暮らしに
さまざまな役割を果たしてくれ
ます。憩いの場、自然を知る学びの場、
そして人と人のつながりを育む
コミュニティの場でもあります。
横浜には、こんな身近な緑を育て、
楽しんでいる人たちがいます。
私たち市民が自ら、考え、行動して
いく「地域緑のまちづくり」事業。
今号では、いま市内に広がる
緑のまちづくりについてご紹介しま
す。

Q まちの緑を みんなで育て楽しむには？

INDEX

- 地域緑のまちづくり
- ウェルカムセンターにいこう
- イベント情報

団地の仲間と緑でまちづくり。

まちのシンボル 池、緑、人がつながる。

緑区竹山団地では、みどりアップ計画の「地域緑のまちづくり」が26年度から進められています。「かつてみんなの憩いの場だった竹山池とその周辺を、いきいきよみがえらせたい」という住民の熱意から、水辺の緑の環境整備が始まりました。仲間に声をかけあって、自分たちの手で緑のまちづくりを始めた「竹山池周辺活性化推進委員会」の皆さんに、みどりアップ計画市民推進会議の委員がお話を伺いました。

(取材 長瀬里佳 委員 編集 東みちよ 委員)



お話を聞きした吉川勝さん(左)、鈴木英二郎さん(中央)、町田史郎さん(右)。20年近く、まちをよくするために活動しています。

団地の真ん中に、池?

竹山団地を歩いていると、中央に団地としては珍しい、人工の「竹山池」が現れます。雑木林と隣り合う景観が楽しめる竹山池。商店街のアーケードが、池に面して遊歩道のようにも印象的です。「昔は池のそばの雑木林の中に小川があって、遊んでいたという話もあるよ」と町田さん。



商店街のアーケード



約7,000㎡ある竹山池は、40年ほど前に神奈川県住宅供給公社の団地開発とともにつくられました。

団地を、池を、なんとかしたい

そんな竹山池は、年数が経ち、濁りや悪臭を放つようになりました。酸素ポンプや井戸水のくみ上げで改善しましたが、いつか住民は離れていきました。そして、それと重なるように住民の高齢化、子育て世代の転居で、今では3人に1人が65才以上に。かつてにぎわっていた商店街も閑散としています。「団地をなんとかしたい」と模索する中、みどりアップ計画の「地域緑のまちづくり」が住民活動を後押しするきっかけとなりました。

Q 地域緑のまちづくりとは?

A 地域が主体となり、その場所にふさわしい緑の計画をつくり、地域ぐるみで緑化を進めるものです。地域の団体が計画を市に提案し、選考を受けます。計画の提案の段階で、専門家によるアドバイスが受けられます。選考を通過し、市と協定を結んだ団体には、緑化の整備費や維持管理費が助成されます。現在市内22団体が活動しています。

Q まちの緑は、なぜ大切?

A 人に潤いや安らぎをもたらすほか、良好な景観形成や賑わいをつくることで、まちの魅力を高めます。また、生き物の生息空間や、ヒートアイランド現象を緩和させるなどの大切な役割もあります。

専門家が伴走する計画づくり

「地域緑のまちづくり」は、地域の人が緑化の計画を自分たちの手でつくります。計画づくりで心強い助っ人になったのが、市から派遣された緑化や環境の専門家でした。住民と一緒に団地の環境を調べて、竹山池と周辺をよみがえらせる緑化のアイデアを形にしていきました。たとえば、危ないからと見向きもされなかった雑木林や池。専門家と住民のワークショップで、雑木林を散策したという住民の記憶がよみがえり、計画の中に雑木林の整備を盛り込むことに繋がりました。



そうやってできた計画では、人々が緑や池に触れるきっかけを緑化でつくり、まちの賑わいを取り戻すことを目指しています。ひとことに「緑化」と言っても、場所ごとに、求められるものは違います。団地のことを誰よりも知っている住民と、専門家が意見を交わして計画をつくっていくことは、まちをただ飾るのではなく、緑を活かして、人が一緒に生きていくまちづくりだと感じました。



竹山池で生き物観察

池に近づいて、見えたこと

活動のひとつに、子どもも参加した「生き物観察のワークショップ」があります。カワセミやスズエビが観察されましたが、外来種も多かったです。「池にこんな生き物がいたのか」と、驚く住民もたくさんいました。外来種や生態系のバランスを考えるきっかけになったようです。



スズエビ

ワークショップの様子

竹山団地のこれから

若い世代に来てほしい、関わる人を増やしたい、団地の外からも見に来てほしい……。まちの緑に関心を持つことが、多世代交流や団地の外から活気を呼び込むきっかけになったらいいな、という願いが計画には込められています。団地の建設当初からの歴史を振り返りつつ、現状に目を向けて未来へと繋ぐ緑の取組に、共感しました。

「地域緑のまちづくり」の助成期間は3年間。みどり税をきっかけにした、3年経ったあとも続く景観・生物多様性の再生への試み。これからは楽しみます。

ここにみどり税

地域緑のまちづくりの費用(整備費・維持管理費・活動費)

地域緑のまちづくりの問合せ

環境創造局みどりアップ推進課
Tel: 671-3447 Fax: 224-6627

地域緑のまちづくり

次回募集は来年度を予定していますが、ご案内はメールマガジンやホームページ、区役所広報相談係で配布のチラシでお知らせします。

まちを緑で、もっとよく!

竹山団地の他に、26年度から「地域緑のまちづくり」に取り組む5団体をご紹介します。

洋光台一丁目町内会みどりアップ委員会(磯子区)

町内会館と民有地を緑化し、住民の憩いの場とするほか、地域の緑の維持管理活動への支援や、バス通りの街路樹まですを使った緑化活動などを通して、住民同士のコミュニケーションを醸成していきます。

南中あじさい咲かせ隊(南区)

通勤通学、散歩などで人通りが多い南中学校周辺に、南中学校で育てたアジサイなどを植えることで、地域の緑化を進めます。生徒と地域の人たちが一緒に緑を増やし、愛着のある活動になるよう、広報誌の発行や講習会などを行います。

やもと農塾(青葉区)

高齢化が進む一方、ボランティアの理解も深い地区。プランターつきベンチで沿道を緑で彩ることや、家庭の生ごみや街路樹の落葉を利用した土づくり、当地由来の禅寺丸柿500本の植樹、散歩道の策定などを通して、住民交流や健康づくりを目指します。



オリジナルのプランターつきベンチを作ったよ



金沢文庫すずらん通り商店会、みどりアップ事業部(金沢区)

人通りの多い商店街で、店主同士や住民が、緑花を通してふれあえる、居心地のいい空間を目指します。また、雨水貯水槽を設け、水やりや商店街での打ち水、防火防災に役立っています。

花と緑の委員会(磯子区)

通勤通学者が行き交う通り沿いのマンションの敷地を、地域の庭として、魅力的な緑化をしていきます。周辺のビオトープと連携した生物の生息域としての役割も視野に、みどりの環境づくりが地域に広がっていくことを目指します。

イベントINFORMATION [みどりのイベント情報]

※料金の記載がない場合は無料

野草を観る会

寺家ふるさと村を散策しながら野草観察

日時：第3日曜日(8月・12月、28年1月・2月を除く)
午前9時30分～正午

対象：小学生以上先着20人

場所：寺家ふるさと村
(青葉区寺家町414)

申込・問合せ：前日までに電話か直接
寺家ふるさと村「四季の家」へ
(Tel:962-7414)

クツワムシー斉調査! ガイダンス

クツワムシの市民参加型調査の説明会

日時：8月22日(土)午後2時～4時

対象：先着20人

場所：にいほる里山交流センター
(緑区新治町887)

申込：電話かファックスかEメールで
新治里山公園・にいほる里山
交流センターへ
(Tel:931-4947 Fax:937-0898
E-mail info@niiharu.jp)

浜なし持寄品評会

生産者が自慢の浜なしを持ち寄る

日時：9月4日(金)
PR販売:午前10時～売場まで
浜なしの展示:午前11時～午後0時30分
出品物販売:午後0時30分～売場まで
(出品物の即売整理券配布は11時30分から)

場所：横浜中央地下街マリナード広場
(JR関内駅徒歩2分)

問合せ：環境創造局農業振興課
Tel:711-0636 Fax:721-6356

さつまいも掘り

日時：団体:9月26日(土)～10月18日(日)
個人:10月17日(土)・18日(日)
午前9時30分～11時(10月17日・18日
のみ11時30分まで)

料金：入園200円(3才～小学生100円)
販売5株700円

場所：舞岡ふるさと村(戸塚区)

申込・問合せ：電話(先着順、団体:9月11日～、
個人:10月2日～)で舞岡ふるさと村虹の家へ
(Tel:826-0700 Fax:826-0749)

農と緑のふれあい祭り

野菜収穫体験や自然素材の工作教室など

日時：11月3日(火・祝)午前10時～午後2時
(こども植物園は3時まで、荒天中止)

場所：児童遊園地・こども植物園(JR保土ヶ谷
駅、JR戸塚駅、JR東戸塚駅又は京急井
土ヶ谷駅からバス)

問合せ：環境活動支援センター
Tel:711-0635 Fax:721-6356

よこはま食と農の祭典2015

横浜の農が大集合!(クイズ・展示・直売等)

日時：11月14日(土)正午～午後5時

場所：クイーンズサークル・クイーンズパーク
(クイーンズスクエア横浜1階)
(MM線みなとみらい駅徒歩3分)

問合せ：環境創造局農業振興課
Tel:671-2639 Fax:664-4425

森とわたしをつなぐ場所 ウェルカムセンターによう

第2回 環境活動支援センター交流スペース

環境活動支援センター内にある交流スペースは、市内の森に関心を持つきっかけづくりの場になる情報拠点。館内では、横浜の森林や樹木のパネル、周辺緑地の花や生き物情報、昆虫の標本等を展示し市内の森の散策情報を紹介。また、小学生以上を対象とした観察会や、クラフト教室等を開催しています。

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：年中無休(年末年始を除く)

問合せ：Tel:713-6350 Fax:721-6356

JR保土ヶ谷駅から

京浜急行井土ヶ谷駅から



森に親しむ行事



交流スペース

神奈川中央交通バス東戸塚駅行(横7系統)か、戸塚駅東口行(戸38系統)か、芹が谷行(77系統)で「児童遊園地入口」下車徒歩8分
横浜市営バス79系統平和台行「児童遊園地前」下車徒歩8分

イベント情報

「トンゴ教室」

児童遊園地内の生き物観察や触れ合い。

日時：7/26(日)午前10時～正午

当日午前10時までに交流スペースへ

※イベントの問合せは、土・日・祝日の
午前9時～午後5時のみ電話で受付

夏休み「子ども昆虫相談室」

昆虫採集や見分け方、昆虫相談。

日時：7/26(日)、8/1(土)・2(日)・23(日)・29(土)・
30(日)午後1時～4時

当日直接交流スペースへ

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/midoriup/>



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議

みどりアップQとは?

みどりアップQの「Q」は「みどりアップをもっと知る、なぜなに?(クエスチョン)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)」を考える。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

みどりアップQ 第4号

(市民推進会議広報誌 第24号)平成27年7月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局) 〒231-0017 横浜市中区港町1-1
Tel:045-671-4214 Fax:045-641-3490
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp

